



ボランティア

9月

「ボランティア」の「て」は、つなぎあう人と人の「手」。手を借りたり、貸したりするためのボランティア情報をイメージして名づけました。

地域づくりの最前線

～そのチャレンジ！応援します～

Third place For Teens
おぎくぼ(サープレおぎくぼ)代表の高澤 友紀さん(左)、岡田 明子さん(右)。荻窪地域で中高生を中心とした居場所をオープンしています。
詳細は2面をご覧ください。



この情報紙は、区内のボランティアの方々に、宛名シール貼り、封入作業を行っていただき、発行しています。いつもご協力ありがとうございます。

【特集】 Third place For Teens おぎくぼ

中高生のための居場所プロジェクト

3面・・・センターからのお知らせ

裏面・・・災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座

【特集企画】

地域づくりの最前線

～そのチャレンジ！応援します～

杉並ボランティアセンターでは、「地域福祉活動費助成金」を通して、地域で活動する団体を応援しています。今回はその中の一つ、チャレンジ応援助成団体※

「Third place For Teens おぎくぼ」代表の高澤 友紀さん、岡田 明子さん、五島 富江さんに活動の様子をうかがいました。※チャレンジ応援助成とは・・・新規の活動を応援するための助成金。地域の方々からの善意で集まった歳末たすけあい運動募金が原資になっています。



▲黄色い看板が目印

Third place For Teens おぎくぼ(以下、サープレという)は、中高生が宿題や勉強をしたり、友だちや大人と関わったりする、家庭でも学校でもない「第3の居場所」です。中高生が学校や部活帰りにふらっと立ち寄れる場所を目指して、荻窪にあるコミュニティスペース「木の芽のいえ」で2021年4月にオープンしました。

中高生が気軽に立ち寄れる“サード プレイス”を

高澤さん：以前から、荻窪周辺に中高生の居場所があったらいいなと思っていました。子どもが小さい頃は、友だちの家を行ったり来たりして遊ぶこともありましたが、中高生くらいになると親と少し距離をとりつつ、自分たちの心地よい場所があります。私が中高生の頃は、近所のたこ焼き屋や親せきが経営する自動車工場などに行って、友だちと勉強をしたり将来の話をしていました。そこに出入りする大人たちとの関わりを通じて、相談ののってもらい、救われたこともあります。自分の経験から、中高生が安心して立ち寄れる居場所は、子どもたちの心の支えの一つになると思います。そんな思いから、同じ世代の子どもがいる五島さんと岡田さんに力を借りて、プロジェクトを立ち上げました。

五島さん：中高生が今日あった出来事を話して、「あ～スッキリした！」と帰っていくこともあります。サープレのスタッフが“ななめの関係”で話を聞いて、中高生の気持ちの整理ができれば居場所としての意味があると感じています。

岡田さん：話を聞いてくれる場所は大事です。子どもたちの思いを受け止め一緒に考えていける場になれば、という気持ちで子どもたちを受け入れています。



▲友達と勉強

▲受付台

プロジェクト立ち上げの背中を押した、 コロナ禍の子どもたちの想い

五島さん：コロナの影響があまりにも大きく、子どもたちは学校での職場体験や遠足、課外活動もできずにいました。子どもたちのやるせない気持ちを身近で感じていたので、将来の夢や希望に向かって悩み進んでいる中高生に、寄り添っていききたいという想いもありました。

高澤さん：進路に悩む高校生から、たくさんの人と関わって視野を広げたいとの声がありました。建築家に会って仕事のことを聞いたり、アマチュアモデルをしている大学生に協力してもらい、個性を活かすメイク講座をしたり。受け入れていただける企業があれば、興味のある職業の方に話を聞く場も企画できたらと考えています。

岡田さん：緊急事態宣言中、学校や塾の授業はオンラインへと切り替わりました。コミュニケーションの機会を欠いていた子どもたちは、久しぶりに会えた友だちと嬉しそうに話をしていたのが印象的でした。それは大人も同じで、「やっぱり顔を合わせて話すことは大事だね」と実感したこともサープレの立ち上げを後押ししました。

荻窪地域の学校や団体と連携した 地域の居場所にしたい

五島さん：サープレでは、中高生だけでなく近所のお母さんたちがふらっと立ち寄って話をしていくことも。コロナに配慮し大々的な周知は躊躇していますが、地域の中に気持ちを受け止める場所があることを知ってもらえたら嬉しいです。

岡田さん：室内には、訪れた中高生が自由に自分の思いを書けるスペースがあります。興味のあること、将来に対する不安、友だちの作り方、夢など。大人になっていく成長過程の中で、中高生の気持ちに寄り添った柔軟なサポートができればという想いです。

高澤さん：サープレを立ち上げて約半年が経ちました。今は、中高生や地域のニーズを把握するときだにとらえ模索しながら活動しています。プロジェクトを立ち上げたことで、子どもだけでなく、大人同士のつながりもできました。このつながりを大切に、近隣の学校や施設、団体の方々と連携しながら、居心地の良い場所をつくっていきたいです。

Third place For Teens おぎくぼ



【場所】 荻窪3-35-28

(コミュニティスペース・木の芽のいえ)

【日時】 毎週月曜日 17:00～20:00

【料金】 200円 【定員】 8名

【HP】 <https://3rdplaceforteens.com>



夏のボランティア体験2021「我ら、キッズライターV」



情報紙「ボラン・て」を皆さまのもとにお届けするために、発送ボランティアの協力は欠かせません。

今回は、キッズライターボランティアの長尾 柑奈さん（小学5年生）が発送ボランティアにインタビューをしました。

キッズライターボランティアとは、今年初めて行う夏のボランティア体験プログラムです。「ボラン・て」の発送ボランティアを体験し、取材し、記事として伝えるという3回のプログラムです。

◀ 発送ボランティアの伊藤さん(79歳・左)と長尾さん

ボランティア「やった後が気持ちがいい」

インタビューした人は、ボランティアのベテランの伊藤博之さんです。伊藤さんは、楽しく人生を送っています。一番驚いたのはコンビニの店長を20年間もやっていたことです。私も一度は店長をやりたいです。とても素敵だなと思った言葉があります。それは、「やった後が気持ちがいい」という言葉です。ボランティアをやり切った後の満足感があるというふうに言っていました。私も少し共感できました。伊藤さんは、ボランティアセンターまで行きで30分、帰りも30分かかります。それに対し、「健康(でいるため)だな」と話してくれました。ボランティアをするきっかけは、仕事を辞め何かしたいという想いからです。活動を終えた後、「満足感」「気持ちがいい」と感じられ、発送ボランティアとゴルフが生きが

いになっています。発送ボランティアをやって2年がたった今でもそう感じているそうです。そして、とても活動が楽しいと言っていたのが印象的でした。

私も、発送ボランティアをして楽しかったです。伊藤さんの話を聞いて、将来仕事を辞めたら、このようなボランティアをしてみたいと感じました。

(文・長尾 柑奈 キッズライターボランティア)



▲ 発送作業の様子

発送は毎月10日頃。作業は約2時間。5,000部に情報記事をはさみ、発送先へ封入。10名前後のボランティアの方が協力。

開催
します!

地域とつながろう講座 チャレンジ! ボランティア
～見えない見えづらい世界ってどんな世界?～

これからボランティア活動を始めたいと考えている方を対象とした講座です。視覚障害当事者を含む講師より、日常生活でのお話を聞き、実際にウェルファーム杉並内にある点字や誘導ブロックなどを確認することで、ボランティア活動を行うにあたり必要な知識を深めていきます。

※新型コロナウイルスの状況によって、延期または中止になる場合があります。

日時 10月9日(土) 13:30～15:30

対象 区内在住・在学・在勤の方

会場 ウェルファーム杉並4階 第4集会室(天沼3-19-16)

参加費 無料

講師 wacca 佐藤 一人 氏・北田 祐果 氏

申込み
受付 電話またはメールで
杉並ボランティアセンターへ
TEL: 03-5347-3939

定員 25名(先着順)

開催
します!

「星に語りて ～Starry Sky～」上映会



©きょうされん

この映画は、東日本大震災当時の障害者の状況と支援者の活動について、当時を知る証言者たちへの取材に基づき撮影されたものです。災害時や障害者への支援として、また、同じ地域に暮らす住民として、多くの方にご覧いただき考える機会としていただきたいと思います。

※新型コロナウイルスの状況によって、変更または中止になる場合があります。

日時 11月3日(水)文化の日 14:00～16:30(開場 13:30)

会場 西荻地域区民センターホール
(桃井4-3-2)

参加費 無料

定員 100名(事前申込制)

申込み 杉並ボランティアセンター 10月1日から
ホームページまたは電話 受付開始

★杉並・グルメ・さんぽ★

どんまい福祉工房(本天沼1-24-9)

TEL: 03-3396-2881 FAX: 03-3396-2892

https://www.donmaikoubo.com/



なめらかです♡

どんまいプリン
230円～

お問合せ

杉並ボランティアセンター

TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063

令和3年度 災害ボランティアセンター 運営スタッフ養成講座

この講座では、被災者と災害ボランティアをつなげる災害ボランティアセンターの受付や事務などでお手伝いして下さるボランティア（運営スタッフ）を養成します。いざというときには、地域をよく知る地元の方々のチカラが必要です。あなたのチカラを地域で活かしてみませんか？皆様のご参加、お待ちしております！



第1回 10月2日（土） 14：00～16：00

- ・オリエンテーション
- ・社会福祉協議会・災害ボラセンについて
- ・杉並区の防災について

【講師】
杉並区防災課職員
杉並ボランティアセンター職員

【会場】ウエルファーム杉並 3階 第1・2教室
(天沼3-19-16)

第2回 10月16日（土） 13：30～16：30

- ・災害ボランティア体験
(活動者側視点)

【講師】
宮崎 賢哉氏
(災害支援・防災教育コーディネーター)

【会場】ウエルファーム杉並 3階 第1・2教室
(天沼3-19-16)

第3回 10月30日（土） 13：30～16：30

- ・災害ボランティアセンターの
運営シミュレーション
(運営者側視点)

【講師】
宮崎 賢哉氏
(災害支援・防災教育コーディネーター)

【会場】ウエルファーム杉並 4階 第4集会室
(天沼3-19-16)

第4回 11月6日（土） 14：00～16：00

- ・先輩ボランティアから
・まとめとふりかえり

【講師】
杉並災害ボランティアの会
杉並ボランティアセンター職員

【会場】ウエルファーム杉並 3階 第1・2教室
(天沼3-19-16)

- 対象 災害支援に関心がある区内在住・在勤・在学の方
募集人数 20名（先着順）
参加費 2,000円（第1回目に会場でお支払いいただきます。）
申込み方法 杉並ボランティアセンター ホームページの申込みフォーム
（電話でのお申込みも受け付けます）※申込締切：9月30日（木）
その他 全4回の連続講座になります。なるべく全回の出席をお願いいたします。

主催：社会福祉法人杉並区社会福祉協議会／共催：杉並区／協力：杉並災害ボランティアの会



杉並のボランティア情報紙「ボラン・て」

発行：社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
杉並ボランティアセンター

〒167-0032 杉並区天沼3-19-16 ウェルファーム杉並4階
TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063
メール: info@borasen.jp ホームページ: http://borasen.jp

うえるくん
杉並社協のイメージキャラクター

開所時間：火～土曜日
8：30～17：00

* 祝日・年末年始はお休みです。



情報紙「ボラン・て」は、次の区内各所にも置いてありますのでご利用ください。区役所・区民集会所・区民事務所・地域区民センター・一部のゆうゆう館・図書館・駅スタンド（区内 JR、地下鉄丸の内線など）・他